

福祉サービス第三者評価結果

①第三者評価機関名

名 称	社会福祉法人 徳島県社会福祉協議会
訪問調査実施日	平成20年 11月 13日・14日

②事業者情報

名 称	光の子保育園	種 別	保育所
代表者氏名	黒田 信雄	定員(利用人数)	90名
所 在 地	徳島県名西郡石井町石井556番地-5		TEL 088-674-2530

③総評

◇特に評価の高い点

- 賀川豊彦が実践した「地域に生きる人々と共に歩む」の精神を引き継ぎ、保育内容や卒園児との継続した交流など園の様々な取り組みが子育て支援の拠点となり、地域で果たす役割等に繋げている。
- イエス団憲章を柱にした保育園の理念・基本方針・保育目標を明文化し、ホームページやパンフレットで広く詳しく情報を開示している。また園長をはじめ全職員が開かれた保育園に向けて取り組んでいる。
- 中・長期計画を策定し、各事業年度で達成度や評価などを行っている。2009年度には最終年度を迎えるにあたり、次年度の計画策定への課題を示している。
- 職員は保護者に対し、共に子育てをしていくことの大切さを伝えて信頼関係を築き、連携しながら子どもの発達援助に取り組んでいる。
- 50年の保育の積み重ねと園長に保育経験があること、長期勤務者がいること等が利点となり、保育の重要な役割を担っている。

◇改善を求められる点

- 事業計画の策定や苦情解決、サービスのさらなる改善については、職員の役職に応じた役割分担の徹底や各種委員会が保護者や職員の意見を反映して十分な機能を発揮できるよう努められたい。
- 人事考課における職員の評価は少人数のためのデメリットを危惧しがちだが、人材育成のための評価のあり方について、さらなる検討を期待したい。
- 職員の研修・教育については各階層の到達すべき基準等が示されており、年次計画的に見直しや評価を行うなど向上を目指した取り組みを期待したい。
- 保育の継続性については、幼稚園や他の保育所との連携・引き継ぎに工夫が望まれる。
- 段差や保育室の鍵の閉め忘れ、園内での喫煙など危険因子の排除を徹底されたい。
- 保育内容については施設設備を活用し、子どもの自発的活動への援助や絵本室の設置など工夫が見られるが、子どもの内面から発揮できるさまざまな表現を自由に体験できる工夫を、今後もさらに充実させる取り組みを期待したい。

④福祉サービス第三者評価結果に対する事業者のコメント

- この度は、私どもの保育園を第三者の目で見え分析、評価していただきありがとうございました。地域に奉仕する保育園として賀川精神を引き継いで50年の歩みを続けておりますが、今回の受審は、私たち自身を見直すきっかけを与えてくださいました。
- 人事考課についてのご指摘がありましたが、保育園保育を始め福祉サービスは「成果」という価値に置き換えるべきではない分野であり、馴染まないと考えています。人材育成のための成果主義の導入については検討していません。その他、改善を求められるとして挙げられた点については、今後の保育園の課題として受け止めさせていただき、改善に向けて努力したいと思いを新たにしています。
- 地域に喜ばれる保育園として、また子どもやその家庭に最善の保育が提供できる保育園として、何より子ども達と保護者の皆さんの「心の根っこ」となる保育園となるべく伝統に甘んじることなく、尚一層努力と研鑽を続けて参ります。

⑤評価細目の福祉サービス第三者評価結果(別添)

福祉サービス第三者評価結果

○評価分野別評価結果(分野別の特記事項)

I 福祉サービスの基本方針と組織

a	11	b	1	c	0
---	----	---	---	---	---

1理念・基本方針

法人・保育園の理念・基本方針に基づく保育理念を示し、ホームページ等においても明示している。職員には「保育の手引き(理念や基本方針、保育園の運営管理、保育の実践、諸規定等)」を配布し、周知している。また保護者に対しても十分な説明を行い、理解と共感が得られている。

2計画の策定

5カ年の中・長期計画とそれを反映した単年度ごとの事業計画を策定している。計画は職員会やPTA役員会などで説明し、理解を得ている。計画策定時に保護者や職員の意見を参考にする等の取り組みが十分ではない。

3管理者の責任とリーダーシップ

保育士の資格を有する園長は、強い信念を持って保育を実践し、職員からの信望もあり、業務の管理や指導にリーダーシップを発揮している。

○理念・基本方針

賀川豊彦の精神を引き継ぐ「イエス団憲章」を制定し、パンフレット・ホームページ等に明文化している。

a

基本方針を明文化し、広報誌やパンフレット等に記載している。

a

理念や基本方針は、職員会や研修において周知している。「保育の手引き」においても詳しく明記し、職員に配付している。

a

入園説明会や継続児面接においての配付資料に理念・基本方針を明記している。また、園長より詳しく説明等も行われている。

a

○計画の策定

課題や目標等を記載した中・長期計画(2005～2009)を策定し、各年度末には評価・見直しも行っている。

a

中・長期計画を反映した事業計画を項目別に示している。

a

法人組織として定められた仕組みを経て計画を策定している。しかし、保護者や職員の意見を参考にするなどの取り組みが十分ではない。

b

事業計画は、職員や保護者等に文書で配付している。また、ホームページにも掲載している。

a

○管理者の責任とリーダーシップ

管理者は自らの役割と責任を会議や研修で表明している。保護者からの信頼も得ている。

a

遵守すべき法令等を把握し、職員には職員会や研修会で周知している。

a

保育サービスの質の向上に向けた課題や改善点を把握し、定期的・継続的な取り組みを行っている。

a

経営や業務の効率化と改善の課題や解決策を会議において取り上げ、指導力を発揮している。

a

II 組織の運営管理

a	14	b	7	c	0
---	----	---	---	---	---

1 経営状況の把握

堅実で安定した経営を行い、課題についても適切に把握して対処している。第三者による監査は行われていない。

2 人材の確保・養成

年間の教育・研修計画に基づき、職員の能力開発と保育の質の向上に取り組んでいる。人事考課については「自己報告制度」や「年間の振り返り」などを活かした人材育成型の評価の検討が十分ではない。

3 安全管理

安全管理の意識は高く、各マニュアルを整備し、点検・研修・訓練を定期的実施している。

4 地域との交流と連携

施設に入所する高齢者との交流や中学生の保育体験の受け入れ、地域行事への参加や備品の貸し出しなど、積極的な関わりを行っている。

○経営状況の把握

福祉サービスや地域のニーズを収集・把握し、事業計画にも反映している。	a
在園児の推移数や改善課題を分析し、周知している。	a
定期的に法人本部へ書面による事業・決算報告を行っているが、第三者による監査は行われていない。	b

○人材の確保・育成

人事管理に関する計画を策定している。しかし、必要な人材や人員体制に関しては、組織的に管理するまでには至っていない。	b
「自己報告制度」「年間の振り返り」を職員ごとに実施している。しかし、客観的基準に基づく人事考課は行われていない。	b
職員の就業に関する規程や届出があり、会議において改善点や解決策を検討する仕組みがある。	a
健康診断やインフルエンザ予防接種費用の一部を負担しているが、職員の意見や希望の聴取が十分とはいえない。	b
会議や研修に関する基本姿勢を事業計画に示している。	a
職員個別の教育・研修計画を策定している。また、内容は報告書の回覧に加えて研修報告会で発表する機会も設けている。	a
職員の経験等に応じて研修目的等を示している。しかし、職員教育・研修計画の評価や見直しまでには至っていない。	b
実習生の受け入れに関する基本姿勢を示し、体制を整備している。	a
保育園独自のプログラムと個別の計画があり、実習生に合わせた指導や工夫を行っている。	a

○安全管理

緊急時の安全確保体制を整備している。事故・衛生管理・感染症・災害時等のマニュアルに基づき、訓練も実施している。	a
事故・ヒヤリハット報告により原因分析し、再発防止に取り組んでいる。	a

○地域との交流と連携

地域との関わりについての基本的姿勢を示し、地域活動に参加している。	a
保育園機能を提供する取り組みとして、積極的に職員の派遣や備品の貸し出し等を行っている。	a
ボランティアを受け入れる体制を整備しているが、受け入れに関する方針を明文化した文書はない。	b
「保育の手引き」に必要な社会資源を記載し、職員に配付している。	a
定期的な話し合いや交流の機会を設け、地域関係機関との連携を図っている。	a
関係機関・団体等の会議、PTA役員会や保護者懇談会等で、福祉ニーズを把握している。	a
地域の福祉ニーズに基づく事業計画はあるが、実施までには至っていない。	b

Ⅲ 適切な福祉サービスの実施

a	20	b	2	c	0
---	----	---	---	---	---

1利用者本位の福祉サービス

賀川豊彦の精神を受け継いだ利用者尊重の基本姿勢を示し、満足度の向上に向けた取り組みを実践している。意見・要望への対応や苦情解決への取り組みは規程にそった体制を整備している。

2サービスの質の確保

「保育の手引き」に保育業務の具体的な内容や留意点等を示し、研修を実施する等してサービスの質の確保に努めている。利用者の記録等は個人情報保護規程を重視した管理体制を整えている。

3サービスの開始・継続

利用開始前にホームページやパンフレットで十分な情報を提示し、見学者等にも詳しい説明を行っている。保育の継続性については、幼稚園や他の保育園との引き継ぎが十分ではない。

4サービス実施計画の策定

入園時や個人面談・家庭状況調査を通して一人ひとりの状況を客観的に把握している。計画は保護者の意向を反映して立案し、反省・考察を行いながら見直しもを行っている。

○利用者本位の福祉サービス

基本方針にそった基本姿勢を示し、子どもの実態や環境の変化に応じて見直している。職員会等では、共通理解の向上のために研修を実施している。	a
管理者は、法人で整備された規程・マニュアルの研修を受講して職員にも周知し、具体的に取り組んでいる。	a
個別面接やPTA役員会等を通して要望等を把握している。また保護者を子ども中心とした子育て仲間として位置づけ、保育や給食等について共に話し合い満足度の向上に努めている。	a
担任や園長との個人懇談を年3回実施し、保育ニーズの把握に取り組んでいる。	a
苦情解決に関する規程を作成したり、第三者委員を委嘱するなど、苦情や相談などを受け入れる環境を整えている。また、電子メールやホームページの掲示板を利用し、保護者等から要望等を聞いている。	a
入園説明会・園だより等で苦情解決の仕組みを周知している。苦情への検討内容・対応策は保護者等へもフィードバックする体制となっている。	a
意見等についてはマニュアルにそって随時会議を開き、対応策を講じている。個別案件や職員個人に関する事柄は受付責任者が対応し、必要に応じて全職員の共有化を図っている。	a

○サービスの質の確保

定期的に保育内容の見直しをクラスごとに実施し、年2回の職員会で全体の取り組み状況を検討している。また、独自の自己評価表を作成し、実施している。	a
保育園独自の自己評価に基づき、分析結果や課題をクラス別に整理し、共有化も図っている。	a
PDCAサイクルの考え方に基づく仕組みづくりに努めている。しかし、改善策・改善計画を策定する取り組みには至っていない。	b
「保育の手引き」に業務の具体的な内容や留意点等を示し、職員への周知を図っている。子どもの個性尊重やプライバシー保護の姿勢を示し、機能している。	a
標準的な実施方法は各種会議の場で検討して見直し、職員・保護者等からの意見や提案を反映している。	a
記録は、子ども一人ひとりの内容にばらつきが生じないよう項目を設け、発達状況・保育目標・生活状況等を記載し、職員間で共有している。	a
個人情報保護規程に従い、年度内は各クラスで責任者を定めて保管し、年度終了後は園長が保管している。守秘義務についても研修を実施している。	a
全職員で共有するもの、担任レベルで共有するものと範囲は異なるが、ケース会議を定期的に行いながら共有している。	a

○サービスの開始・継続

ホームページやパンフレットで必要な情報等を公開している。保護者等の希望に応じて見学なども受け入れている。	a
利用希望者に理解しやすい資料等を作成し、詳しく説明している。サービスの開始にあたり、保育内容等も示しながら対応している。	a
小学校とは連絡会を開き、保育の継続性に配慮した引継ぎをしている。しかし、幼稚園や他の保育所との引継ぎは十分とは言えない。	b

○サービス実施計画の策定

入園・進級時の「家庭状況調査票」をもとに、個人面談して状況把握を行い、必要に応じて計画の見直しもしている。	a
一人ひとりの具体的ニーズや課題を示し、記録している。	a
担任が年間計画を作成して毎月見直し、必要に応じて改編している。週別保育案、日誌等の記録にも反省・考察の記載がある。	a
週別保育案をクラス内で検討し、作成している。主任保育士が内容をチェックし、園長が確認している。保護者の意向の反映にも努めている。	a

A 個別サービスについて

a	30	b	4	c	0
----------	----	----------	---	----------	---

1子どもの発達援助

保育計画は基本方針や地域の実態、保護者のニーズ等を考慮しながら作成し、記録している。健康管理・食事は職員間で連携しながら専門性を発揮し、日々向上していくことを目標にして取り組んでいる。特にアレルギー疾患を持つ子どもへの対応は調理器具や調理室を分離するなどの安全対策を十分に行っている。保育環境は子どもの生活に相応しい場を確保できるような人的・物的な工夫がみられる。特に乳児室の安全への配慮は徹底している。保育環境の整備や子どもの表現活動を支援する取り組みには改善の余地がある。

2子育て支援

保護者との情報交換やPTA役員会、個人懇談会、園長との懇談会、クラス懇談会などを実施し、子ども一人ひとりの共通理解に努め、記録も整っている。虐待への対応を「保育の手引き」に示し、担当機関への通報体制を整えている。

3安全・事故防止

安全管理については、事故・食中毒の予防や施設設備の管理など、常に徹底して取り組んでいる。給食担当者による「衛生管理チェックリスト」や保育士による「安全チェックリスト」を実施するなど、さまざまな角度からの事故防止に取り組んでいる。

○子どもの発達援助

基本方針に基づき、保育計画を地域の実態に則して策定している。子どもの年齢ごとに細分化して保護者の意向も反映し、一貫性のある計画となっている。	a
指導計画は年度始めにクラス担任が検討して月毎に反省・考察・見直しを行い、次の指導計画へと繋げている。	a
健康管理に関するマニュアルがあり、保育室に掲示している。子ども一人ひとりの健康状態をチェックし、必要に応じて職員にも周知している。	a
年2回実施している健康診断の結果や嘱託医の指導・助言は職員間で共有し、保育に反映している。また保護者にも内容を伝えて連携し、一人ひとりの状況の改善に努めている。	a
健康診断同様の取り組みを行っている。	a
感染症に関するマニュアルを整備している。保護者に対しては感染症罹患時の協力を依頼し、保育園の対応方法を説明している。	a
食物に関心が持てるように栄養について話し、配膳や片付けに参加してもらうなど、家庭的な雰囲気の中で食事ができるよう配慮している。	a
クラス連絡会議に給食担当者も参加し、喫食状況や健康状態を把握している。新メニュー時は給食担当者が保育室で共に食事し、子どもの状況を把握している。	a
保護者には年3回の食育だよりと月1回の献立表の配付、サンプルの提示などを行っている。また保育士と給食担当者は食育計画を策定し、共に子どもの食育に取り組んでいる。	a
専門医の診断書を基に除去食を実施している。調理器具や調理室も別にして安全に配慮した取り組みを行っている。	a
保育室内外とも点検をするなど安全・清潔の保持に努めている。しかし、子どもにとって危険な要因(段差、鍵の閉め忘れ、園内での喫煙など)を排除する取り組みが十分ではない。	b
畳や絨毯など子供たちがくつろげる場所を設け、生活の場に相応しい環境を保持している。	a
「保育の手引き」に基づき、子ども一人ひとりの家庭背景を重視した受容を実践している。	a
発育の個人差を把握しながら対応するなど、生活習慣の自立に向けて無理なく取り組んでいる。	a
図書室の本や室内外の玩具・遊具などは、発達に応じて自由に使えるよう配慮している。	a
地域性を取り入れた園外保育を実施し、老人会など近隣社会との関わりを大切にしている。	a
限られた設備を活用できるよう努めている。しかし、さまざまな表現活動が自由に取り組めるような環境づくりが十分とはいえない。	b
異年齢児保育を実施しながら社会生活に必要なルールを身に付けられるよう支援している。	a
子どもの人権への配慮などは保育の基本理念の中でも特に重視し、園長自ら率先して取り組んでいる。	a
性差に関係なく「人間として」どうあるべきかを重視した保育に取り組み、保護者や職員にも周知・徹底している。	a
乳児保育室への入室規制や衛生への配慮には十分取り組んでいる。ベッド室・調乳室を備え、乳児が安心して生活できる環境を保持している。	a
全職員が子どもの状況等を把握できるよう記録し、共有している。また保育室の移動を少なくするなど、できるだけ子どもの負担にならないよう取り組んでいる。	a
障害児保育については、前向きに取り組む姿勢が「保育の手引き」に示されている。しかし、園内は階段が多く、すべての子どもに十分対応できる状態ではない。	b

○子育て支援	
保護者と日常的に情報交換するなどして信頼関係づくりに努めている。クラス懇談会を年2回、園長懇談会を年1回それぞれ実施してニーズの把握に努めている。	a
家庭の状況や保護者との情報交換の内容は、様式の項目にそって適切に記録している。	a
クラス・園長懇談会に加えてPTA役員会を月1回実施し、保護者との共通理解に努めている。しかし、保護者が保育実践に直接加わる機会が十分とは言えない。	b
園内で虐待を発見した場合の対応方法を定め、敏速に園長に連絡ができるようマニュアルに示している。	a
虐待への対応は「保育の手引き」に示し、発見した場合の通告などの体制を整えている。	a
一時保育は、担当保育士や保育室を決めて実施している。遊びや散歩・行事などは通常保育児と交流できるよう配慮している。	a
○安全・事故防止	
「衛生管理チェックリスト」のもと冷蔵庫等の温度、残留塩素濃度などの記録がある。また使い捨て手袋やマスク、キッチンペーパーを使用し、絶えず衛生管理に努めている。	a
食中毒対応の手順を示し、職員だけでなく納入業者への衛生管理も徹底している。	a
安全チェックリストがあり、定期的に点検している。事故等は報告書で職員に周知し、再発防止に取り組んでいる。	a
対応マニュアルを整備している。災害時には働いている保護者に配慮し、できる限り保育園を開園できるよう取り組んでいる。連絡方法は個人情報保護に配慮している。	a
「保育の手引き」に不審者対応手順を示し、避難訓練も定期的実施している。また保育者は緊急時に笛を長く吹いて全職員に知らせよう常に携帯している。	a

福祉サービス第三者評価結果(共通評価項目)

I. 福祉サービスの基本方針と組織

I-1. 理念・基本方針

		評価結果			判断の理由
I-1-(1) 理念、基本方針が確立されている。					
I-1-(1)-①	理念が明文化されている。	Ⓐ	b	c	賀川豊彦の精神を引き継ぐ「イエス団憲章」を制定し、パンフレット・ホームページ等に明文化している。
I-1-(1)-②	理念に基づく基本方針が明文化されている。	Ⓐ	b	c	基本方針を明文化し、広報誌やパンフレット等に記載している。
I-1-(2) 理念や基本方針が周知されている。					
I-1-(2)-①	理念や基本方針が職員に周知されている。	Ⓐ	b	c	理念や基本方針は、職員会や研修において周知している。「保育の手引き」においても詳しく明記し、職員に配付している。
I-1-(2)-②	理念や基本方針が利用者等に周知されている。	Ⓐ	b	c	入園説明会や継続児面接においての配付資料に理念・基本方針を明記している。また、園長より詳しく説明等も行われている。

I-2 計画の策定

		評価結果			判断の理由
I-2-(1) 中・長期的なビジョンと計画が明確にされている。					
I-2-(1)-①	中・長期計画が策定されている。	Ⓐ	-	c	課題や目標等を記載した中・長期計画(2005～2009)を策定し、各年度末には評価・見直しも行っている。
I-2-(1)-②	中・長期計画を踏まえた事業計画が策定されている。	Ⓐ	-	c	中・長期計画を反映した事業計画を項目別に示している。
I-2-(2) 計画が適切に策定されている。					
I-2-(2)-①	計画の策定が組織的に行われている。	a	Ⓑ	c	法人組織として定められた仕組みを経て計画を策定している。しかし、保護者や職員の意見を参考にするなどの取り組みが十分ではない。
I-2-(2)-②	計画が職員や利用者等に周知されている。	Ⓐ	b	c	事業計画は、職員や保護者等に文書で配付している。また、ホームページにも掲載している。

I-3 管理者の責任とリーダーシップ

		評価結果			判断の理由
I-3-(1) 管理者の責任が明確にされている。					
I-3-(1)-①	管理者自らの役割と責任を職員に対して表明している。	Ⓐ	b	c	管理者は自らの役割と責任を会議や研修で表明している。保護者からの信頼も得ている。
I-3-(1)-②	遵守すべき法令等を正しく理解するための取り組みを行っている。	Ⓐ	b	c	遵守すべき法令等を把握し、職員には職員会や研修会で周知している。
I-3-(2) 管理者のリーダーシップが発揮されている。					
I-3-(2)-①	質の向上に意欲を持ちその指導力を発揮している。	Ⓐ	b	c	保育サービスの質の向上に向けた課題や改善点を把握し、定期的・継続的な取り組みを行っている。

I-3-(2)-② 経営や業務の効率化と改善に向けた取り組みに指導力を発揮している。	①	b	c	経営や業務の効率化と改善の課題や解決策を会議において取り上げ、指導力を発揮している。
--	---	---	---	--

II. 組織の運営管理

II-1 経営状況の把握

	評価結果			判断の理由
II-1-(1) 経営環境の変化等に適切に対応している。				
II-1-(1)-① 事業経営をとりまく環境が的確に把握されている。	①	b	c	福祉サービスや地域のニーズを収集・把握し、事業計画にも反映している。
II-1-(1)-② 経営状況を分析して改善すべき課題を発見する取り組みを行っている。	①	b	c	在園児の推移数や改善課題を分析し、周知している。
II-1-(1)-③ 外部監査が実施されている。	a	②	c	定期的に法人本部へ書面による事業・決算報告を行っているが、第三者による監査は行われていない。

II-2 人材の確保・養成

	評価結果			判断の理由
II-2-(1) 人事管理の体制が整備されている。				
II-2-(1)-① 必要な人材に関する具体的なプランが確立している。	a	②	c	人事管理に関する計画を策定している。しかし、必要な人材や人員体制に関しては、組織的に管理するまでには至っていない。
II-2-(1)-② 人事考課が客観的な基準に基づいて行われている。	a	②	c	「自己報告制度」「年間の振り返り」を職員ごとに実施している。しかし、客観的な基準に基づく人事考課は行われていない。
II-2-(2) 職員の就業状況に配慮がなされている。				
II-2-(2)-① 職員の就業状況や意向を把握し必要があれば改善する仕組みが構築されている。	①	b	c	職員の就業に関する規程や届出があり、会議において改善点や解決策を検討する仕組みがある。
II-2-(2)-② 福利厚生事業に積極的に取り組んでいる。	a	②	c	健康診断やインフルエンザ予防接種費用の一部を負担しているが、職員の意見や希望の聴取が十分とはいえない。
II-2-(3) 職員の質の向上に向けた体制が確立されている。				
II-2-(3)-① 職員の教育・研修に関する基本姿勢が明示されている。	①	b	c	会議や研修に関する基本姿勢を事業計画に示している。
II-2-(3)-② 個別の職員に対して組織としての教育・研修計画が策定され計画に基づいて具体的な取り組みが行われている。	①	b	c	職員個別の教育・研修計画を策定している。また、内容は報告書の回覧に加えて研修報告会で発表する機会も設けている。
II-2-(3)-③ 定期的に個別の教育・研修計画の評価・見直しを行っている。	a	②	c	職員の経験等に応じて研修目的等を示している。しかし、職員教育・研修計画の評価や見直しまでには至っていない。
II-2-(4) 実習生の受け入れが適切に行われている。				
II-2-(4)-① 実習生の受け入れに対する基本的な姿勢を明確にし体制を整備している。	①	b	c	実習生の受け入れに関する基本姿勢を示し、体制を整備している。
II-2-(4)-② 実習生の育成について積極的な取り組みを行っている。	①	b	c	保育園独自のプログラムと個別の計画があり、実習生に合わせた指導や工夫を行っている。

II-3 安全管理

		評価結果			判断の理由
II-3-(1) 利用者の安全を確保するための取り組みが行われている。					
II-3-(1)-① 緊急時(事故、感染症、災害の発生時など)の対応など利用者の安全確保の体制が整備されている。	Ⓐ	b	c	緊急時の安全確保体制を整備している。事故・衛生管理・感染症・災害時等のマニュアルに基づき、訓練も実施している。	
II-3-(1)-② 利用者の安全確保のためにリスクを把握し対策を実行している。	Ⓐ	b	c	事故・ヒヤリハット報告により原因分析し、再発防止に取り組んでいる。	

II-4 地域との交流と連携

		評価結果			判断の理由
II-4-(1) 地域との関係が適切に確保されている。					
II-4-(1)-① 利用者と地域とのかかわりを大切にしている。	Ⓐ	b	c	地域との関わりについての基本的姿勢を示し、地域活動に参加している。	
II-4-(1)-② 事業所が有する機能を地域に還元している。	Ⓐ	b	c	保育園機能を提供する取り組みとして、積極的に職員の派遣や備品の貸し出し等を行っている。	
II-4-(1)-③ ボランティア受け入れに対する基本姿勢を明確にし体制を確立している。	a	Ⓑ	c	ボランティアを受け入れる体制を整備しているが、受け入れに関する方針を明文化した文書はない。	
II-4-(2) 関係機関との連携が確保されている。					
II-4-(2)-① 必要な社会資源を明確にしている。	Ⓐ	b	c	「保育の手引き」に必要な社会資源を記載し、職員に配付している。	
II-4-(2)-② 関係機関等との連携が適切に行われている。	Ⓐ	b	c	定期的な話し合いや交流の機会を設け、地域関係機関との連携を図っている。	
II-4-(3) 地域の福祉向上のための取り組みを行っている。					
II-4-(3)-① 地域の福祉ニーズを把握している。	Ⓐ	b	c	関係機関・団体等の会議、PTA役員会や保護者懇談会等で、福祉ニーズを把握している。	
II-4-(3)-② 地域の福祉ニーズに基づく事業・活動が行われている。	a	Ⓑ	c	地域の福祉ニーズに基づく事業計画はあるが、実施までには至っていない。	

III. 適切な福祉サービスの実施

III-1 利用者本位の福祉サービス

		評価結果			判断の理由
III-1-(1) 利用者を尊重する姿勢が明示されている。					
III-1-(1)-① 利用者を尊重したサービス提供について共通の理解をもつための取り組みを行っている。	Ⓐ	b	c	基本方針にそった基本姿勢を示し、子どもの実態や環境の変化に応じて見直している。職員会等では、共通理解の向上のために研修を実施している。	
III-1-(1)-② 利用者のプライバシー保護に関する規程・マニュアル等を整備している。	Ⓐ	b	c	管理者は、法人で整備された規程・マニュアルの研修を受講して職員にも周知し、具体的に取り組んでいる。	

Ⅲ-1-(2) 利用者満足の上向上に努めている。				
Ⅲ-1-(2)-① 利用者満足の上向上を意図した仕組みを整備している。	①	b	c	個別面接やPTA役員会等を通して要望等を把握している。また保護者を子ども中心とした子育て仲間として位置づけ、保育や給食等について共に話し合い満足度の上向上に努めている。
Ⅲ-1-(2)-② 利用者満足の上向上に向けた取り組みを行っている。	①	b	c	担任や園長との個人懇談を年3回実施し、保育ニーズの把握に取り組んでいる。
Ⅲ-1-(3) 利用者が意見等を述べやすい体制が確保されている。				
Ⅲ-1-(3)-① 利用者が相談や意見を述べやすい環境を整備している。	①	b	c	苦情解決に関する規程を作成したり、第三者委員を委嘱するなど、苦情や相談などを受け入れる環境を整えている。また、電子メールやホームページの掲示板を利用し、保護者等から要望等を聞いている。
Ⅲ-1-(3)-② 苦情解決の仕組みが確立され十分に周知・機能している。	①	b	c	入園説明会・園だより等で苦情解決の仕組みを周知している。苦情への検討内容・対応策は保護者等へもフィードバックする体制となっている。
Ⅲ-1-(3)-③ 利用者からの意見等に対して迅速に対応している。	①	b	c	意見等についてはマニュアルにそって随時会議を開き、対応策を講じている。個別案件や職員個人に関する事柄は受付責任者が対応し、必要に応じて全職員の共有化を図っている。

Ⅲ-2 サービスの質の確保

	評価結果			判断の理由
Ⅲ-2-(1) 質の上向上に向けた取り組みが組織的に行われている。				
Ⅲ-2-(1)-① サービス内容について定期的に評価を行う体制を整備している。	①	b	c	定期的に保育内容の見直しをクラスごとに実施し、年2回の職員会で全体の取り組み状況を検討している。また、独自の自己評価表を作成し、実施している。
Ⅲ-2-(1)-② 評価の結果に基づき組織として取り組むべき課題を明確にしている。	①	b	c	保育園独自の自己評価に基づき、分析結果や課題をクラス別に整理し、共有化も図っている。
Ⅲ-2-(1)-③ 課題に対する改善策・改善計画を立て実施している。	a	②	c	PDCAサイクルの考え方に基づく仕組みづくりに努めている。しかし、改善策・改善計画を策定する取り組みには至っていない。
Ⅲ-2-(2) 個々のサービスの標準的な実施方法が確立している。				
Ⅲ-2-(2)-① 個々のサービスについて標準的な実施方法が文書化されサービスが提供されている。	①	b	c	「保育の手引き」に業務の具体的内容や留意点等を示し、職員への周知を図っている。子どもの個性尊重やプライバシー保護の姿勢を示し、機能している。
Ⅲ-2-(2)-② 標準的な実施方法について見直しをする仕組みが確立している。	①	b	c	標準的な実施方法は各種会議の場で検討して見直し、職員・保護者等からの意見や提案を反映している。
Ⅲ-2-(3) サービス実施の記録が適切に行われている。				
Ⅲ-2-(3)-① 利用者に関するサービス実施状況の記録が適切に行われている。	①	b	c	記録は、子ども一人ひとりの内容にばらつきが生じないよう項目を設け、発達状況・保育目標・生活状況等を記載し、職員間で共有している。

Ⅲ-2-(3)-② 利用者に関する記録の管理体制が確立している。	①	b	c	個人情報保護規程に従い、年度内は各クラスで責任者を定めて保管し、年度終了後は園長が保管している。守秘義務についても研修を実施している。
Ⅲ-2-(3)-③ 利用者の状況等に関する情報を職員間で共有化している。	①	b	c	全職員で共有するもの、担任レベルで共有するものと範囲は異なるが、ケース会議を定期的実施しながら共有している。

Ⅲ-3 サービスの開始・継続

	評価結果			判断の理由
Ⅲ-3-(1) サービス提供の開始が適切に行われている。				
Ⅲ-3-(1)-① 利用希望者に対してサービス選択に必要な情報を提供している。	①	b	c	ホームページやパンフレットで必要な情報等を公開している。保護者等の希望に応じて見学なども受け入れている。
Ⅲ-3-(1)-② サービスの開始にあたり利用者等に説明し同意を得ている。	①	b	c	利用希望者に理解しやすい資料等を作成し、詳しく説明している。サービスの開始にあたり、保育内容等も示しながら対応している。
Ⅲ-3-(2) サービスの継続性に配慮した対応が行われている。				
Ⅲ-3-(2)-① 事業所の変更や家庭への移行などにあたりサービスの継続性に配慮した対応を行っている。	a	②	c	小学校とは連絡会を開き、保育の継続性に配慮した引継ぎをしている。しかし、幼稚園や他の保育所との引継ぎは十分とは言えない。

Ⅲ-4 サービス実施計画の策定

	評価結果			判断の理由
Ⅲ-4-(1) 利用者のアセスメントが行われている。				
Ⅲ-4-(1)-① 定められた手順に従ってアセスメントを行っている。	①	b	c	入園・進級時の「家庭状況調査票」をもとに、個人面談して状況把握を行い、必要に応じて計画の見直しもしている。
Ⅲ-4-(1)-② 利用者の課題を個別のサービス場面ごとに明示している。	①	b	c	一人ひとりの具体的ニーズや課題を示し、記録している。
Ⅲ-4-(2) 利用者に対するサービス実施計画が策定されている。				
Ⅲ-4-(2)-① サービス実施計画を適切に策定している。	①	b	c	担任が年間計画を作成して毎月見直し、必要に応じて改編している。週別保育案、日誌等の記録にも反省・考察の記載がある。
Ⅲ-4-(2)-② 定期的にサービス実施計画の評価・見直しを行っている。	①	b	c	週別保育案をクラス内で検討し、作成している。主任保育士が内容をチェックし、園長が確認している。保護者の意向の反映にも努めている。

福祉サービス第三者評価結果（保育所版）

A-1. 子どもの発達援助

		評価結果			判断の理由
A-1-(1) 発達援助の基本					
A-1-(1)-①	保育計画が、保育の基本方針に基づき、さらに地域の実態や保護者の意向等を考慮して作成されている。	Ⓐ	b	c	基本方針に基づき、保育計画を地域の実態に則して策定している。子どもの年齢ごとに細分化して保護者の意向も反映し、一貫性のある計画となっている。
A-1-(1)-②	指導計画の評価を定期的に行い、その結果に基づき、指導計画を見直している。	Ⓐ	b	c	指導計画は年度始めにクラス担任が検討して月毎に反省・考察・見直しを行い、次の指導計画へと繋げている。
A-1-(2) 健康管理・食事					
A-1-(2)-①	登所時や保育中の子どもの健康管理は、マニュアルなどがあり子ども一人ひとりの健康状態に応じて実施している。	Ⓐ	b	c	健康管理に関するマニュアルがあり、保育室に掲示している。子ども一人ひとりの健康状態をチェックし、必要に応じて職員にも周知している。
A-1-(2)-②	健康診断の結果について、保護者や職員に伝達し、それを保育に反映させている。	Ⓐ	b	c	年2回実施している健康診断の結果や嘱託医の指導・助言は職員間で共有し、保育に反映している。また保護者にも内容を伝えて連携し、一人ひとりの状況の改善に努めている。
A-1-(2)-③	歯科検診の結果について、保護者や職員に伝達し、それを保育に反映させている。	Ⓐ	b	c	健康診断同様の取り組みを行っている。
A-1-(2)-④	感染症発生時に対応できるマニュアルがあり、発生状況を保護者、全職員に通知している。	Ⓐ	b	c	感染症に関するマニュアルを整備している。保護者に対しては感染症罹患時の協力を依頼し、保育園の対応方法を説明している。
A-1-(2)-⑤	食事を楽しむことができる工夫をしている。	Ⓐ	b	c	食物に関心が持てるように栄養について話をし、配膳や片付けに参加してもらうなど、家庭的な雰囲気の中で食事ができるよう配慮している。
A-1-(2)-⑥	子どもの喫食状況を把握するなどして、献立の作成・調理の工夫に生かしている。	Ⓐ	b	c	クラス連絡会議に給食担当者も参加し、喫食状況や健康状態を把握している。新メニュー時は給食担当者が保育室で共に食事し、子どもの状況を把握している。
A-1-(2)-⑦	子どもの食生活を充実させるために、家庭と連携している。	Ⓐ	b	c	保護者には年3回の食育だよりと月1回の献立表の配付、サンプルの提示などを行っている。また保育士と給食担当者は食育計画を策定し、共に子どもの食育に取り組んでいる。
A-1-(2)-⑧	アレルギー疾患を持つ子どもに対し、専門医からの支持を得て、適切な対応を行っている。	Ⓐ	-	c	専門医の診断書を基に除去食を実施している。調理器具や調理室も別にして安全に配慮した取り組みを行っている。
A-1-(3) 保育環境					
A-1-(3)-①	子どもが心地よく過ごすことのできる環境を整備している。	a	Ⓑ	c	保育室内外とも点検をするなど安全・清潔の保持に努めている。しかし、子どもにとって危険な要因（段差、鍵の閉め忘れ、園内での喫煙など）を排除する取り組みが十分ではない。
A-1-(3)-②	生活の場に相応しい環境とする取り組みを行っている。	Ⓐ	b	c	畳や絨毯など子供たちがくつろげる場所を設け、生活の場に相応しい環境を保持している。
A-1-(4) 保育内容					
A-1-(4)-①	子ども一人ひとりへの理解を深め、受容しようと努めている。	Ⓐ	b	c	「保育の手引き」に基づき、子ども一人ひとりの家庭背景を重視した受容を実践している。

A-1-(4)-② 基本的な生活習慣や生理現象に関しては、一人ひとりの子どもの状況に応じて対応している。	①	b	c	発育の個人差を把握しながら対応するなど、生活習慣の自立に向けて無理なく取り組んでいる。
A-1-(4)-③ 子どもが自発的に活動できる環境が整備されている。	①	b	c	図書室の本や室内外の玩具・遊具などは、発達に応じて自由に使えるよう配慮している。
A-1-(4)-④ 身近な自然や社会とかかわれるような取り組みがなされている。	①	b	c	地域性を取り入れた園外保育を実施し、老人会など近隣社会との関わりを大切にしている。
A-1-(4)-⑤ さまざまな表現活動が自由に体験できるように配慮されている。	a	②	c	限られた設備を活用できるよう努めている。しかし、さまざまな表現活動が自由に取り組めるような環境づくりが十分とはいえない。
A-1-(4)-⑥ 遊びや生活を通して人間関係が育つよう配慮している。	①	b	c	異年齢児保育を実施しながら社会生活に必要なルールを身に付けられるよう支援している。
A-1-(4)-⑦ 子どもの人権に十分配慮するとともに、文化の違いを認め、互いに尊重する心を育てるよう配慮している。	①	b	c	子どもの人権への配慮などは保育の基本理念の中でも特に重視し、園長自ら率先して取り組んでいる。
A-1-(4)-⑧ 性差への先入観による固定的な観念や役割分業意識を植え付けないよう配慮している。	①	b	c	性差に関係なく「人間として」どうあるべきかを重視した保育に取り組み、保護者や職員にも周知・徹底している。
A-1-(4)-⑨ 乳児保育のための環境が整備され、保育の内容や方法に配慮がみられる。	①	b	c	乳児保育室への入室規制や衛生への配慮には十分取り組んでいる。ベッド室・調乳室を備え、乳児が安心して生活できる環境を保持している。
A-1-(4)-⑩ 長時間にわたる保育のための環境が整備され、保育の内容や方法に配慮がみられる。	①	b	c	全職員が子どもの状況等を把握できるよう記録し、共有している。また保育室の移動を少なくするなど、できるだけ子どもの負担にならないように取り組んでいる。
A-1-(4)-⑪ 障害児保育のための環境が整備され、保育の内容や方法に配慮がみられる。	a	②	c	障害児保育については、前向きに取り組む姿勢が「保育の手引き」に示されている。しかし、園内は階段が多く、すべての子どもに十分対応できる状態ではない。

A-2 子育て支援

	評価結果			判断の理由
A-2-(1) 入所児童の保護者の育児支援				
A-2-(1)-① 一人ひとりの保護者と日常的な情報交換に加え、個別面談などを行っている。	①	b	c	保護者と日常的に情報交換するなどして信頼関係づくりに努めている。クラス懇談会を年2回、園長懇談会を年1回それぞれ実施してニーズの把握に努めている。
A-2-(1)-② 家庭の状況や保護者との情報交換の内容が必要に応じて記録されている。	①	-	c	家庭の状況や保護者との情報交換の内容は、様式の項目にそって適切に記録している。
A-2-(1)-③ 子どもの発達や育児などについて、懇談会などの話し合いの場に加えて、保護者と共通理解を得るための機会を設けている。	a	②	c	クラス・園長懇談会に加えてPTA役員会を月1回実施し、保護者との共通理解に努めている。しかし、保護者が保育実践に直接加わる機会が十分とは言えない。
A-2-(1)-④ 虐待を受けていると疑われる子どもの早期発見に努め、得られた情報が速やかに所長まで届く体制になっている。	①	b	c	園内で虐待を発見した場合の対応方法を定め、敏速に園長に連絡ができるようマニュアルに示している。

A-2-(1)-⑤ 虐待を受けていると疑われる子どもの保護者への対応について、児童相談所などの関係機関に照会、通告を行う体制が整っている。	①	-	c	虐待への対応は「保育の手引き」に示し、発見した場合の通告などの体制を整えている。
A-2-(2) 一時保育				
A-2-(2)-① 一時保育は、一人ひとりの子どもの心身の状態を考慮し、通常保育との関連を配慮しながら行っている。	①	b	c	一時保育は、担当保育士や保育室を決めて実施している。遊びや散歩・行事などは通常保育児と交流できるよう配慮している。

A-3 安全・事故防止

	評価結果			判断の理由
A-3-(1) 安全・事故防止				
A-3-(1)-① 調理場、水回りなどの衛生管理は、マニュアルに基づいて適切に実施されている。	①	b	c	「衛生管理チェックリスト」のもと冷蔵庫等の温度、残留塩素濃度などの記録がある。また使い捨て手袋やマスク、キッチンペーパーを使用し、絶えず衛生管理に努めている。
A-3-(1)-② 食中毒の発生時に対応できるマニュアルがあり、さらにその対応方法については、全職員にも周知されている。	①	b	c	食中毒対応の手順を示し、職員だけでなく納入業者への衛生管理も徹底している。
A-3-(1)-③ 事故防止のためのチェックリスト等があり、事故防止に向けた具体的な取組を行っている。	①	b	c	安全チェックリストがあり、定期的に点検している。事故等は報告書で職員に周知し、再発防止に取り組んでいる。
A-3-(1)-④ 事故や災害の発生時に対応できるマニュアルがあり、全職員に周知されている。	①	b	c	対応マニュアルを整備している。災害時には働いている保護者に配慮し、できる限り保育園を開園できるよう取り組んでいる。連絡方法は個人情報保護に配慮している。
A-3-(1)-⑤ 不審者の侵入時などに対応できるマニュアルがあり、全職員に周知されている。	①	b	c	「保育の手引き」に不審者対応手順を示し、避難訓練も定期的実施している。また保育者は緊急時に笛を長く吹いて全職員に知らせるよう常に携帯している。